2021新語・流行語大賞トップ・テンに「人流」が選定

　　　人流・観光研究所長(観光学博士)寺前秀一

字句「人流」が2021年の新語・流行語大賞に選定された。コロナ禍で政府HPや高官から「人流」が発せられたから、マスコミでも頻繁に見受けられた。1930年に鉄道省の組織として字句「観光」が使用されてから、マスコミでも観光が激増しているから、同じ現象である。それまで概念「観光」には字句「遊覧」等も用いられていた。ただし政府が使用した字句「観光」の概念は越境を前提とする国際観光であり、英文名はBoard of Tourist（Tourismではない）であった。近年ではVFR(親戚・知人訪問)までも観光に含めて論評され、研究者の使用する概念「観光」が曖昧化している。前世紀には読売新聞検索では皆無、朝日新聞検索では4例しか使用されなかった字句「ツーリズム」を使用する研究者まで出現してきており、混乱に拍車をかけている。そこで私は研究用語として概念「人流」を提唱し始めたのである。

字句「人流」は前世紀から稀ではあるが使用されていたから新語ではない。以前はGoogle検索で筆者がトップに位置していたが、近年では簡単にはヒットしなくなっている。しかし、流行語大賞事務局は丁寧に調査し筆者を受賞者に選定した。筆者は、人の移動のみならず、非移動である居所、宿所、職場等での所在も含めた概念として、空間的時間的拡がりをもったものとしての明確な意図をもって字句「人流」を選定したと自負している。

概念人流の英語表記を考え、Human Logisticsを使用したが、Human Trafficking, Human Smugglingにつながるのか、一般受けせず、Logistics for Humanを薦められている。「人流」は人を物のように扱っているという印象を持つ人が少なからず存在するが、在庫概念を包摂する「物流」も人の意思が作用したものを扱っている点では人流と同じである。気象学では台風を物流ととらえているのは、法則性があるからである。水流、電流も法則性が研究対象である。研究者であるなら「観光」の曖昧さを乗り越え「人流」の法則性を研究することが基本である。

